

令和 5 年度
那覇市小学校区まちづくり協議会
意見交換会実施報告書

令和 5 年 11 月
那覇市 市民文化部
まちづくり協働推進課 作成

目 次

○実施概要	P.1
○報告	
・オープニングパート	P. 3
・分科会①「若い世代とつながろう！SDGsパスポート活用のお誘い」	P. 4
・分科会②「みんなが参加しやすい環境づくりとは？～協働の雰囲気をつくるヒント～」	P. 6
・分科会③「校区会計担当者勉強会～会計報告をラクにするテクニック～」	P. 8
・分科会④「情報アップデート！なぜ今、校区まちづくり協議会なのか」	P. 10
・クロージングパート	P. 13
○参考資料	
実施後アンケート結果	P. 15

令和5年度 那覇市小学校区まちづくり協議会 意見交換会 実施概要

意見交換会のねらい

- ・より良い校区まち協を運営していくためのヒントやアイデアを得る機会とする。
- ・運営に関するモヤモヤや成功事例を共有する。
- ・他校区との交流を深め、今後の活動の幅をさらに広げる。
- ・協働によるまちづくり推進協議会と共催することで、同協議会と各校区まち協の連携へとつなげる。

プログラム

令和5年8月18日(金) なは市民協働プラザ2F・3F

18:00	30分	<u>受付・ゆんたくタイム</u> ・各自テーブルで軽食を食べながら ゆんたく(情報交換などフリートーク)。 ・各校区自慢のコーナー、校区まち協総会資料閲覧コーナー 閲覧
18:30	30分	<u>オープニングセレモニー</u> ・趣旨説明 ・1分間スピーチコーナー ～会議を独り占めしない練習を兼ねて～ 主催者1分挨拶(那覇市 政策統括調整監 仲本達彦) 共催者1分挨拶(那覇市協働によるまちづくり推進協議会 与儀弘子会長) 各校区代表者1分挨拶 ・本日のプログラムについて・連絡事項
19:00	10分	各分科会へ移動
19:10	50分	<u>分科会</u> 分科会①「若い世代とつながろう！SDGs パスポート活用のお誘い」 分科会②「みんなが参加しやすい環境づくりとは？」 分科会③「校区会計担当勉強会～会計報告をラクにするテクニック～」 分科会④「情報アップデート！なぜ今、校区まちづくり協議会なのか」
20:00	10分	メイン会場へ移動・休憩
20:10	50分	<u>クロージングセッション・中締め</u> ・各分科会の内容を共有 ・講評(那覇市 政策統括調整監 仲本達彦) ・ミニ講座「他市町村事例：子どもがリーダーのまちづくり」 (まちづくり協働推進課 主幹 野底武光)
21:00	30分	<u>フリータイム</u>
21:30		退室

参加者

○対象

那覇市小学校区まちづくり協議会及び同準備会 15校区の代表者。

(参加の各小学校区まちづくり協議会:与儀、若狭、銘苅、曙、仲井真、小禄南、城西、天妃、城南、大名、城東、真和志、那覇、金城 [計14校区、設立順。石嶺は欠席])

- ・那覇市協働によるまちづくり推進協議会 役員及び推薦の協働大使
- ・オブザーバーとして、那覇市社会福祉協議会より実習生及び引率職員

○参加者総数 68人

参加者数	所属別内訳		来賓・講師・オブザーバー
	校区まち協	協まち協	スタッフ等
68人	34人	11人	23人

○統一ワード(略称記載についてのおことわり)

この報告書では各団体・組織の名称について、正式名称または下記の略称で記載します。

- ・小学校区まちづくり協議会…校区まち協
- ・那覇市協働によるまちづくり推進協議会…協まち協
- ・那覇市まちづくり協働推進課…まち協課

オープニングパート

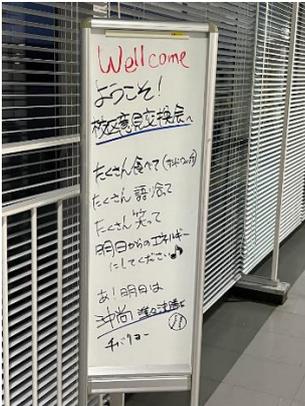
報告書作成担当:まちづくり協働推進課 古堅

場所:なは市民協働プラザ 2階 会議室1

司会:まちづくり協働推進課 古堅

1. もぐもぐタイム<18:00~>

久しぶりの対面での意見交換会ということもあり、参加者同士すぐに交流が始まり、会場はすぐにぎやかに。この光景でも意見交換会を開催して良かったと感じるほどでした。協働によるまちづくり推進協議会提供のサンドイッチも好評でした。



2. 意見交換会開始<18:30~>

参加予定者のほぼ全員が集まり、意見交換会がスタート。スケジュールの都合上、主催者及び各校区紹介のあいさつは、すべて1分以内と制限。スクリーンに、カウントダウンタイマーを表示し、制限時間を見える化したところ、時間に追われながらもほぼ全員が時間内にあいさつを終えることができました。時間に追われながら早口であいさつする様子を見て笑いが起きるなど和やかな雰囲気では進みました。その後、各分科会へ移動。



分科会①「若い世代とつながろう！ SDGs パスポート活用のお誘い」

報告書作成:まちづくり協働推進課・中村

場 所:なは市民協働プラザ研修室②

講 師:沖縄県ユネスコ協会 栩野 浩 理事

参加人数:7名

1.分科会のねらい目的

SDGs パスポート事業と協働大使・校区まち協の活動は近いところにあります。

全国的にも SDGs パスポートが普及されていく中で、日頃地域活動をしている校区まち協でも活用できるのでは？若者を取り込む、きっかけづくりになるのでは？と考えました。そこでこの分科会で、どのようにして SDGs パスポートを活用できるか皆で考える場を作りたく本分科会を設定しました。

2.分科会内容

参加者は協働大使・校区まち協関係者7名の参加でした。初めに沖縄県ユネスコ協会の栩野(とちの)さんから SDGs とは？SDGs パスポートとは？の講義を開催しました。「17 項目のゴールを全部覚える必要はない。みんなが世の中のためと思ってすることはほとんど SDGs である」との栩野さんから言葉は参加者が SDGs パスポートの取り組みを身近に感じることができ、有意義な講義でした。

講義の後、参加者でどうやったら校区で SDGs パスポートを使えるか？を二つのグループに分けグループワークを行いました。

グループワークでは、参加者それぞれが校区の活動で、またはそれ以外の活動でどのように SDGs パスポートを使えそうかを楽しそうに話し合っていました。1グループでは「SDGs パスポートを使って子ども会を復活させる！」について2グループでは、実際に校区で使うときに何が必要かアイデアを出し合っていました。グループワークには栩野さんも参加し、グループの話の中で生まれた疑問点をその場で答えることによって、参加者の SDGs パスポートの利用の仕方のイメージが膨らみ、充実した時間となっていました。

最後に栩野さんからの各グループの講評時間があり「若い世代と繋がるというのがより鮮明になったと思う。SDGs パスポートの普及をしている立場の人間として、今回参加者の皆さんとお話しでき、皆さんの考えを聞くことができる機会となって嬉しかった。」と講評を行いました。



参加者の感想として

- ・学校側と繋がるツールとして利用できる。
 - ・制度の理解と活用のヒントがあった
 - ・少人数で話せてよかった。
- といった感想が寄せられました。

3. 講評

「今どきの子どもたちは SDGs ネイティブ」という講師の言葉が印象的であった。SDGs は、今や常識的な言葉となっているが、抵抗なく実践に移せるかどうか、

子どもと大人の違いになるのであろう。清掃活動などにおいて、スタンプラリー形式の SDGs パスポートを取り入れ、中高生を中心に広く参加を促すことに成功しており、校区まち協にも応用可能なユニークな取り組みであると感じた。

(仲本政策統括調整監)

今回の分科会では、はじめは SDGs パスポートに興味を持ってくれるのかと少し不安がありました。実際に分科会が始まると、参加者も SDGs パスポートにとっても興味をもって参加していて有意義な時間であったと思います。最後に少し時間が余ったので質問の時間をとったが、「今後自分の校区の小中学校に SDGs パスポート事業をやってみないですかと話しをしたい。パスポートを借りるときは直接連絡してもいいですか？」などの質問も出ており参加者の関心が高まっていて、分科会の開催は成功に終わることができたと思います。

分科会にご参加いただいた皆様、つたない進行であったと思いますがご参加くださりありがとうございました。(まちづくり協働推進課 中村)



SDGs パスポートにご興味のある方は、
なは市民活動支援センターボランティア担当者
(098-861-5024)までご連絡ください。

分科会②

「みんなが参加しやすい環境づくりとは？」

～協働の雰囲気をつくるヒント～

報告書作成:まちづくり協働推進課・仲里

場 所:なは市民協働プラザ 会議室1・2

講 師:石垣 綾音氏

参加人数:13名

1. 分科会テーマ設定とその理由

校区まちづくり協議会の運営における課題の一つとして、「協議会へ参加する人数を増やしたいと考えているが、難しい面がある」という意見を踏まえ、協議会に参加しやすい雰囲気づくりも必要ではないかと考え、今回はファシリテーションの基本となる「みんなが参加しやすい環境づくりとは？」～協働の”雰囲気”をつくるヒント～と銘打ち、今回はIAF認定ファシリテーター石垣 綾音氏を講師に迎え、参加しやすい場づくりとは何かを考える講義とワークショップを行いました。

2. 分科会での内容と様子

冒頭で、石垣氏から、「今日の意見交換会のオープニングの場において、どんな工夫がされていると思いますか？」との問いに、参加者からは、「軽食の用意がされている」「名札がある」などの例を挙げながら、会議に参加しやすい雰囲気とは、どのようなことかを考えていくことになりました。



▲受講の様子



▲校区まち協内でシェアできるよう、資料が配布された。

【参加して楽しいと思わせることができるか】

講師の石垣氏から、「居づらい、気まずいと感じる店とはどんな店か考えてみましょう」との問いかけに、参加者からは、「フレンドリーすぎる店」「監視されているような雰囲気のある店」「放置されすぎている店」「話に夢中になっているときに無断で皿を下げる店」などの意見が出されました。石垣氏からは、「これらに共通して言えることは、お客様に対して本当の意味でのホスピタリティが足りない」ということでした。自分たちで盛り上がっているからといって、必ずしも新しく参加したい、協力したいと考えている方にとって、本当に参加しやすいとは限らないということを述べられていました。

【会議の運営や協力者を増やすことについて考える】

講義が盛り上がりを見せつつある中、石垣氏からの質問に参加者から回答に苦慮する場面もありました。そのような場面においては、座席を参加者の顔が見えるような配置に変えたり、ある程度の時間を与えることで、一人で考える時間や自分の考えを発表する時間に費やしたりすることで、会議に全員が参加させることができることを実践しながら伝えていました。持ち時間を共有すること、発表する側、聞く側を明確にすることで、自分が今何をすべきか明確にすることができ、それが会議の活性化につながっていくことを受講者は肌で感じることができました。

また、ある協議会のメンバーから、「若い人に来てもらうことが難しいと感じる」という課題に対して、石垣氏は「昔は飲みコミュニケーションと言って飲み会で関係づくりをすることができていたと思うが、社会全体が多様化している中で以前のように行うことは難しい。最近気になっている話題や自身の近況について簡単な質問をしてみると効果があるかもしれない」と回答しました。

さらに、「何年もやっている、恒例行事についての話し合いをすることがあり、マンネリすることもある」という課題については、「参加すべてに想像力を働かせるような質問をすることで、それぞれが具体的なイメージを持つようになり、新しいアイデアを創出することもできる」と仰っていました。自分の意見を表に出さず、ファシリテーターを配置することで、チームとして課題をフィードバックし、さらに深い議論を展開することもできると述べられていました。

3. 分科会における講評と総括

講評の中で、仲本 達彦 那覇市政策統括調整監は、「会議体は、内部では和気あいあいとしていても、外側から見ると、意外と敷居が高いかもしれない。そこを乗り越え、参加しやすい仕組み作りが重要となるところ、様々な視点からのヒントが示された。また、会議においては、ファシリテーションの技術を使いながら、例えば、座席配置や付箋による意見集約など、意見を引き出す工夫や、発言を促すための「聞く技術」について具体的な説明があり有益であった。」との講評をいただきました。

今回の意見交換会において、分科会にご協力いただいた石垣さま、参加された皆様のおかげで、無事に成功を収めることができました。ご協力ありがとうございました。本分科会では、協議会の活動をより充実させるためには、間口を広げることが大切ではないかという意見に基づいて、本分科会を開催いたしました。協議会の運営で、どのようなことで困っているのか、様々な意見を吸い上げ、校区交換会がより充実したものになるよう、職員も精進してまいります。各校区の協議会がさらに飛躍するよう祈念しております。(まち協課 仲里)

分科会③「校区会計担当者勉強会

～会計報告をラクにするテクニック～」

場 所:なは市民協働プラザ 会議室⑧

司会進行:まちづくり協働推進課 又吉

進行補助:那覇市協働によるまちづくり推進協議会 来間

参加人数:12名(11校区)

1. 本分科会の概要(背景)

本分科会は、①「主に年度末の会計報告について、作業を簡素化するテクニックを、他校区の実践等含め楽しく学ぶ」②「普段顔合わせする機会があまりない事務局(会計)担当の、「ヨコのつながり」を作る場とする」という2つのねらいのもと実施いたしました。

分科会を企画した背景としては、昨年度実施した協働力アップ事業の中で、校区まち協において「運営上の悩み・困りごと」が多く共有され、そのうち「事務局の負担が大きい」との意見が見られたことにありました。まち協課としては、その負担の代表格である「会計作業」について、様々な手法を用いて簡素化することが、校区まち協事務局の負担軽減につながると考え、簡素化のためのノウハウや、悩みを共有できるネットワークのきっかけづくりを助けるものとして、上記のねらいを据えて分科会を実施いたしました。

2. 当日のプログラムについて

前項で掲げたねらいを達成すべく、今回の分科会では各校区担当者へアンケートを実施し、会計事務において「工夫していること」「こんなことが知りたい(要望)」「苦労していること」を事前に調査した上で、以下のとおりプログラムの企画・実施いたしました。

■工夫していること

…参加者より、効率化を図るために実際に取り入れているテクニックを紹介していただけると設定しました。

今回は、天妃まち協の会計担当者から「領収書綴り用紙」について、実際の資料も皆さんに配りながらご説明をいただきました。

■こんなことが知りたい(要望)

…事前アンケートより抜粋して、まち協課より皆さまにテクニックを共有いたしました。

「備品購入や人件費についての考え方」について明確にしたい旨、要望として多くあがり、校区まち協補助金の取扱要領を参照しながら、具体的にいくらまでが人件費や備品購入で使えるか等の説明をいたしました。

また、「現金出納表に入力したら支出明細に自動的に反映される仕組みを知りたい」という要望もあり、まち協



▲分科会会場の様子

課の方でそのような関数を適用させたエクセルの様式を作成し、実演いたしました。この様式は、後日配布予定となっています。

■「苦勞していること」

…アンケートで出た、会計作業で苦勞していることについて、どのようにすれば解決できるかを、フリートーク形式で意見交換する時間としました。

参加者から上がった回答のうち、主に「小口現金の管理」「人件費の解釈」について、熱い意見交換が交わされました。各校区によってやり方や解釈が異なる点もある中、「自分たちはこうやっているよ」と相互にアドバイスする場面が見られました。

また、担当職員によって対応や解釈も変わってきているのではないかと、という声もあり、まち協課としても補助金の解釈について、認識をより合わせていく必要性を改めて感じました。

当日の意見交換を踏まえ、補助金の考え方や対象経費等についてまとめた「補助金のとびき(仮称)」の制作について進めているところです。

3. 講評・担当より

活動の継続には、特定のスタッフに負担感が集中してはならない。とりわけ付随的な事務作業が煩雑になるとやる気自体も失われる。その代表ともいえる会計事務の省力化について、本市職員作成によるエクセル表などが紹介され、可能性が感じられた。今やDXの時代であり、今後、さらなる事務の省力化のチャンスが広がるのではないかと。これらの有効利用により、息切れの無い継続的な取り組みが期待される。

(仲本政策統括調整監)

今回の分科会だけでは、悩みや苦勞をすべて解決するまでには至っていないと考えていますが、各校区にそれぞれ悩みや苦勞があり、その中で工夫を重ねながら進めている「同志」がいる(一人じゃない)ということに改めて気づききっかけになったのではないかと感じました。分科会終了後に、連絡先の交換をされている方も見受けられ、今後も継続的につながる機会が作れたらと考えております。

分科会に参加された皆さんには、ふとしたときに今日の分科会のことを思い出していただき、「困ってることないかな」「あそこの校区の人に教えてもらおうかな」と、気軽にできるような関係性が構築できればと改めて感じるところです。

今回初めての試みということもあり拙い進行となりましたが、参加いただいた皆さんに大変助けていただきました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。ありがとうございました。

(まち協課 又吉)



▲最後に記念写真をパシャリ

分科会④情報アップデート！

なぜ今、校区まちづくり協議会なのか

報告書作成担当:まちづくり協働推進課 神谷

場所:なは市民協働プラザ 2階オープンスペース

会進行・話題提供:まちづくり協働推進課 神谷、宮城

参加人数:12名(11校区)

1. 分科会④の概要と当日の様子

本分科会は、令和4年度に実施したコロナ対応まちづくり協働力アップ事業において、アドバイザーとして携わって頂いた櫻井常矢先生(高崎経済大学教授)と、令和5年度なは市民協働大学院の講師である牧野篤先生(東京大学大学院教授)から頂いた講義内容を話題提供として紹介し、小学校区まちづくり協議会の役割や意義を再認識していただくとともに、参加者の想いや各協議会の情報を共有することで、当該協議会に関わる方々の今後の取組みに繋げてもらうことをねらいとして設定しました。

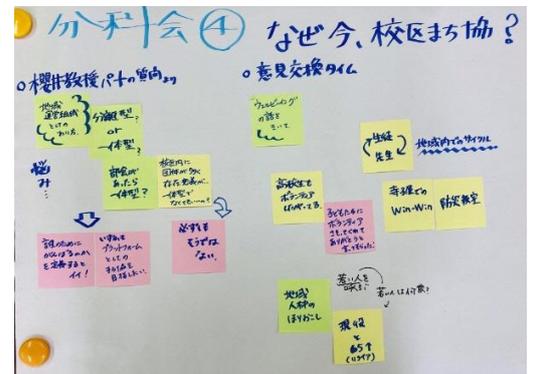
分科会会場の照明照度が低く、参加者が集中し難い環境でしたが、参加者同士の顔が見えるよう座席配置を工夫し、参加者のみなさんも熱心に話題提供や参加者の意見に耳を傾けていました。



▲分科会会場の様子

2. 意見交換

意見交換の場では、主に下記の3点について、質問や各協議会の取組事例をもとに参加者で意見交換がされ、各協議会のお悩み共有や今後の取組に繋がる場になりました。また、参加者全員での意見交換となりましたが、当該協議会に関わっている方々は想いがあり積極的で、「話題提供者⇄参加者」という構図だけでなく、「参加者⇄参加者」の意見交換もされており、時間が足りないほど活発な意見交換の場となりました。



▲意見交換のまとめ

① 協議会の運営の在り方

櫻井先生の地域運営組織の組織形態に関する内容を受けて、参加者の協議会がどのような運営形態なのかを意見交換を通じて、各自整理されていました。また、組織形態には正解や決まりがなく協議会にあった形態で良いということを再認識できた場になりました。

サブタイトル	主な意見
お悩み	・協議会の運営が、一体型(事業実施型)だが、コロナ化で事業実施が難しくなった。 ・事業をする人材が不足している。 ・協議会以外の団体がしっかりしている、協議会の存在意義があるのか。
取組み	・自分の協議会は、各団体で情報(お困りごとや取組みたい事)共有する場となっている。その中で、一緒に取り組める人や団体があるか話し合っている。
気付いたこと	・自分の協議会運営がどのタイプ(※12頁資料参照)なのか整理ができた。

② 「ウェルビーイング」に繋がる取組事例

牧野先生の「生きるを共にする<社会>づくり」が、「ウェルビーイング(継続的によりよく生きる)」の向上につながるという内容を受けて、各協議会の地域に実際生まれている好事例を共有することで、新たな視点に気づく場となりました。

サブタイトル	主な意見
取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが先生として地域に戻ってくる好循環が生まれている。 ・近年は児童、生徒のボランティアの需要があり、その場づくりに繋がっている。 ・学生に協力してもらい寺子屋(学習支援)を実施。winwinの関係。 ・防災教室を実施し地域力の向上に繋げている。

③ 新たな人材発掘

協議会運営や取組において、新たな人材発掘が各校区の共有の課題としてあげられました。関係者の高齢化による担い手不足だけでなく、協議会の活性化のためにも多様な人材が関わる必要があることを参加者で再認識できました。

また、「どうやって参加できるのかわからない。そもそも協議会の存在を知らない場合もある。」という意見もあり、人材を掘り起こせば出てくる！という明るい視点も頂けたと思います。効果的な人材発掘の手法など、今回の意見交換会をきっかけに各協議会の交流を通じて情報共有を図るなど、今後の発展的な取組みの視点をもらえる場となりました。

サブタイトル	主な意見
お悩み	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化が進んでおり、世代交代が余儀なくされるが、引き継げる人材が少ない？ ・協議会の活性化のためにも新たな人材が必要である。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・生産年齢層の参加を促すには、組織形態や運営手法を考える必要がある。 ・若い人といっても年齢に限らず元気な人は若い。 ・時間や生活に余裕のある年代という視点でみると、定年退職後の年齢(65歳)が一つの目安になる。

3. 講評・総括

仲本達彦政策統括調整監より本分科会の講評・総括を頂きました。

(仲本政策統括調整監より)

協働は、本市の掲げる大きなテーマであり、20年を超える長い歴史があるが、未だ、暗中模索とも言える。専門家による豊富な実践例の紹介や有益な視点の提供があり、加えて処方箋ともなりうる「協働の手引き」の読み解きがあった。校区まち協は、活動に加わる人材があってはじめて成り立つ。これらをヒントにしつつ、多くの新しい参加を促しながら、確実に次につなげることの意義が再確認されたと感じた。

～おわりに～

分科会④では、よりよい地域づくりへの強い思いがある仲間(各協議会)がいることを共有できる場となり、意見交換会に参加する前よりも少し前向きな気持ちとともに、取組のヒントを得てもらえたと感じています。また、参加者のみなさんは、向上心が高く分科会の提供内容をすでに熟知されている方もいらっしゃいました。参加者の新たな気づきや取組みに繋がる話題提供ができるよう、担当職員も日々研鑽が必要です。参加者から出た意見を振り返りまとめることで、次回の分科会は、より工夫を凝らし、協議会の一層の活性化に繋がる会が開催できると思います。(まち協課神谷)

地域運営組織が全国で発足中

総務省ウェブサイトより

地域運営組織の組織形態としては、協議機能と実行機能を同一の組織が合わせ持つもの（一体型）や、協議機能を持つ組織から実行機能を切り離して別組織を形成しつつ、相互に連携しているもの（分離型）など、地域の実情に応じて様々なものがあります。

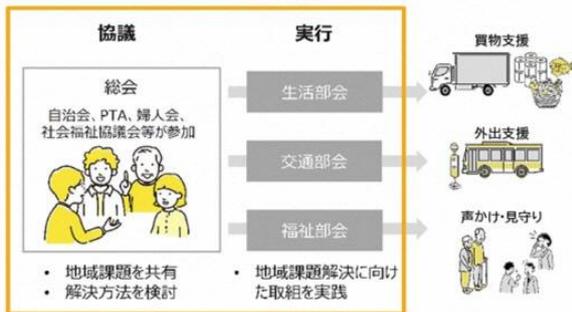
- ⇒自分たちの地域にあった形でつくる。
- ⇒他の校区と同じでなくてはならないわけではない

地域運営組織が全国で発足中

（一体型のイメージ）

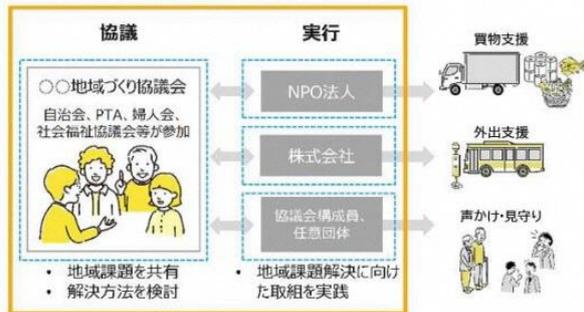
（分離型のイメージ）

〇〇地域づくり協議会（=地域運営組織）



部会を校区が運営し、
実行も協議会が行う

地域運営組織



既存の地域組織・団体などが実行する

クロージングパート

報告書作成担当:まちづくり協働推進課 嘉数

場所:なは市民協働プラザ 2階 会議室1

司会:まちづくり協働推進課 嘉数

1. 分科会内容共有、意見交換

各分科会終了後、小グループ(4~5名)に分かれ、分科会の内容の共有、分科会の情報でヒントになった点や新たに出てきた疑問点、その他、校区まち協の運営についての悩みや、他校区に聞いてみたいことなどについて、各グループ自由に意見交換をしてもらいました。

会場は参加者のエネルギーで凄まじい熱気に包まれていた一方、時々笑い声も聞こえるなど和やかな雰囲気で行いました。

意見交換の最後、各グループの代表者からの感想として、

- ・分科会の内容がとても参考になった。
- ・他校区の事例が知れてよかった。
- ・他校区の人と意見交換会ができ、有意義であった。

などの発言があり、各グループ充実した意見交換ができた様子でした。



2. 今後の校区まちづくり協議会の運営のヒント

事前アンケートにおいて、「参加メンバーの増やし方について聞きたい。」という声が多かったため、一つのテーマとしてピックアップ。事務局より、校区まちづくり協議会の取り組みのヒントになるような事例の紹介をしました。

参加者も真剣な表情で聞き入り、終了後は「とても参考になった」、「ぜひ改めて講義をしてほしい」など、満足度の高い感想が多くありました。

(紹介した事例)

- ・13歳の女子中学生が自治会役員に就任(2022年/横浜市磯子区)
- ・学生組織「OJH(オキワ・ジャパン・ハイスクール)政経塾」が地方議会へ陳情(2023年/沖縄)

地域が若者とどのように向き合うのか、「チャレンジを支援する。成長のきっかけを与える。個人として承認する。」といったことも地域の重要な役割ではないか。

将来の、「若者が集まってきて煩い・・・。担い手が多くて公平に選挙するのが面倒・・・。人のいなかった昔が懐かしい・・・。」という状況を思い浮かべ、楽しみながら頑張ってください！(まちづくり協働推進課:野底)



3. 講評・総括

仲本達彦政策統括調整監より意見交換会全体の講評・総括を頂きました。

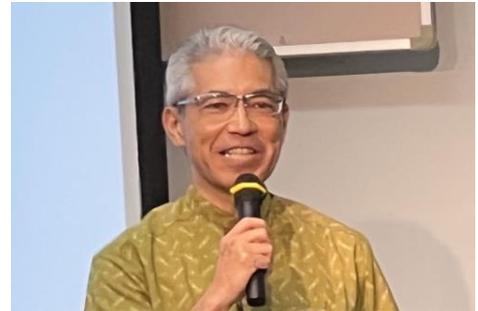
(仲本政策統括調整監より)

今回の各分科会での共通するキーワードは「しかけ」であろう。分科会①では、遊び心で若い人の参加を拡大する「しかけ」、分科会②では、発言を引き出し、議論を活性化させる「しかけ」、分科会③では、事務を省力化し、負担感を軽減する「しかけ」、分科会④では、気づきの機会により協働の意義を再認識する「しかけ」など。

これらの「しかけ」をさらに有効に活用することができれば、校区まち協の輪も、もう一回り、広がり、活動にもさらに奥行きがでてくるのではないかと。

とはいえ、校区まち協の関係者のご苦労は絶えない。今回の意見交換会での気づきに限らず、試行錯誤を繰り返しながらも、一歩ずつ、着実に歩みを重ねることで、夢を形に、元気をまちに、そのような思いが実現に近づくのではないかと感じた。

校区まち協の関係者の皆様の、日々の意欲的な姿勢に、改めて頭が下がるとともに、本市にあっては、まちづくり協働推進課がしっかり伴走しながら、ともに、ゴールを目指したいとの思いを強くした。本日の意見交換会へご参加の皆様へ心より感謝を申し上げます。



4. おわりに

今回の意見交換会について、参加者アンケート(末頁記載)でも満足度の高い評価を多く頂きました。各校区まち協の運営や今後の活動にとって有意義な意見交換会にすることができたと思います。一方で、会場設営や進行について改善を求める声や、実施方法についてのご提案なども頂きました。皆さまから頂いた様々な意見を取り入れ改善しながら、意見交換会を継続・発展させていきたいと思えます。

意見交換会へご参加頂いた皆様、また、意見交換会の開催にあたりご協力頂いた皆様へ重ねて感謝申し上げます。ありがとうございました。(まち協課 賀数)

実施後アンケート結果

報告書作成担当:まちづくり協働推進課 宮城

1. アンケート概要

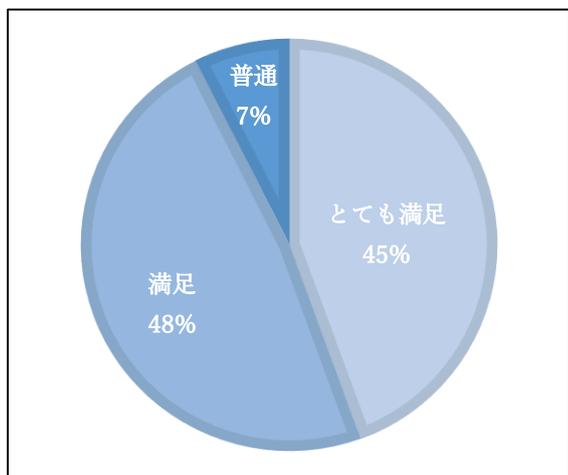
対象者:意見交換会参加者・オブザーバー

期間:8/18-8/31

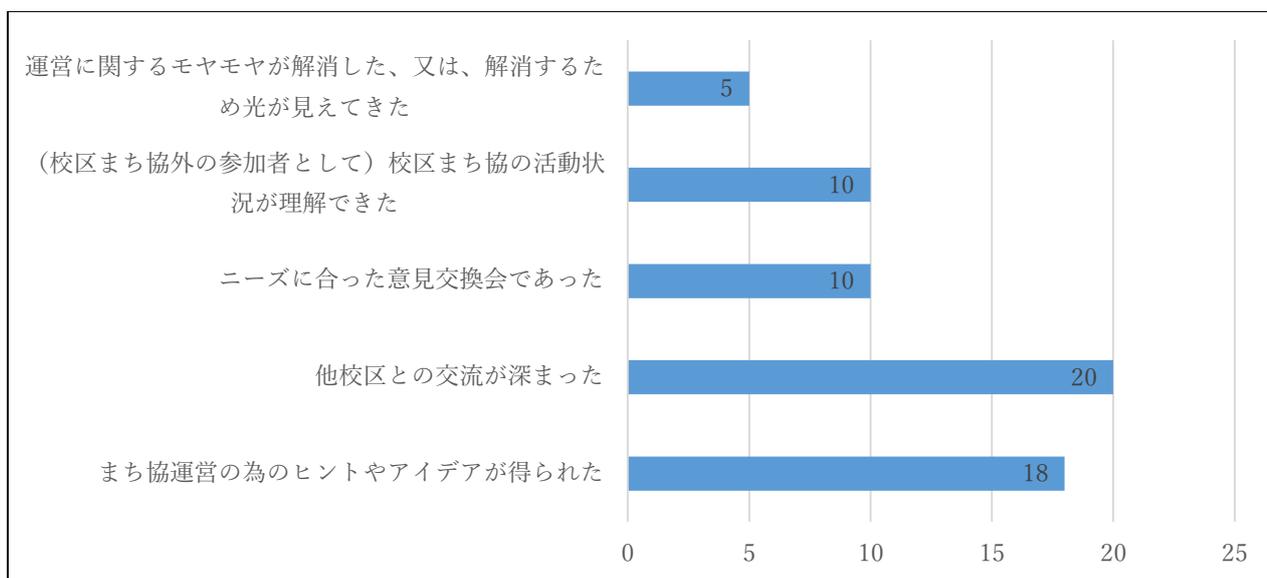
回答者数:27名

2. アンケート結果

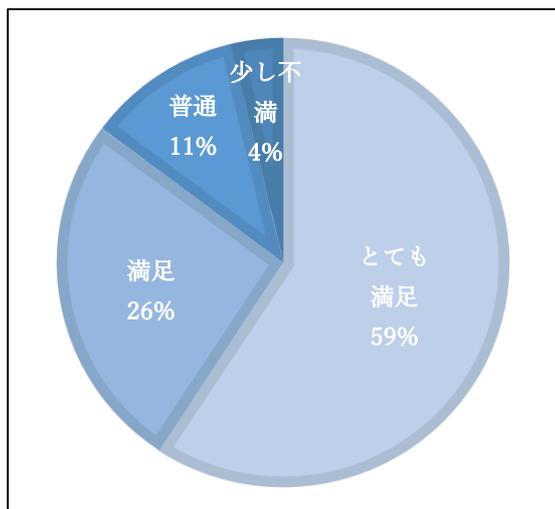
① イベント全体の満足度



② 参加して当てはまる事項(複数選択)



③ オープニングセレモニー・1分スピーチの満足度

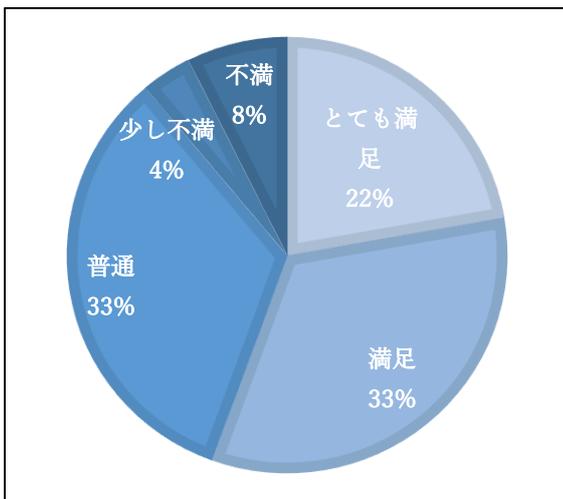


【回答理由】

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各校区の活動状況が端的にまとめられて良かった ➤ 時間制限をする中で、均等に各まち協の話を聞くことができたこと。 ➤ 全体の雰囲気柔らかいものにでき、参加者の距離を縮める事ができた。 ➤ メリハリの効いた運営でした ➤ 言いたい事が集約されているので、記憶に残りやすいと思いました。 ➤ タイムキーパーがしっかり時間管理してくれたので、進行がダラダラしてないのが良かった。 ➤ 1分間という区切った時間だと伝えたい内容に絞られるので、情報密度が高くなるため。 ➤ 楽しいから。 ➤ ゲーム感覚で、楽しかったし、各まち協の特徴が簡潔にまとめられててわかりやすかった。 ➤ 司会のかたの進め方も上手で、逆に笑いがでるなど、すぐ場がなごんでいることもすごいと思いましたし、時間もきちんと終わらせることができるので、ただだと会議への参加がなくなり、参加率も高くなると思います！！那覇市の方すごいと思いました。 ➤ 簡潔で良かったし、ゲーム感覚で楽しんでいて良かった。 ➤ それぞれの個性が表れて非常に面白かった。 ➤ 時間制限はメリハリあってよかった ➤ ホワイトボードの記載をみて ➤ 1分間を厳密に守ってもらう仕掛け(プロジェクター)が良かったです。 ➤ 一分間というスリリングな中、各校区について興味を持って、とてもよいアイスブレイクでした！
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 各校区ごと時間制限内でまとめて発表されていたので、分かりやすく楽しい雰囲気

	<p>良かったと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 短い方がストレートに思いが伝わる。たとえ、言葉足らずでも… ➤ 一分間カウントは良かったと思います。焦りあり笑いありで ➤ スピード感が良かった(ダラダラしない) ➤ 短時間が良かった ➤ 1分間が良いのかは分かりませんが、短時間でのスピーチは良いと思います ➤ 1分なので、皆も聞きいってたと思います ➤ 1分スピーチはとっても良かったです。全員の話がしっかり届いて聞けました。
普通	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 参加していません。 ➤ やや焦られされた感があり伝えたいことが途中飛んでしまった ➤ 校区まち協の活動が理解できた。また、時間を区切ったの報告はいいと思う。後 30 秒ほしい。
少し不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ せめて2分にして欲しい。自己紹介、特に肩書は省略するよう徹底した方がいいのでは。

④ ゆんたくタイムの満足度



【回答理由】

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ サンドイッチ食べながら、気楽に話しが、出来た。 ➤ 仕事帰りの参加者にとっては、軽食の提供はありがたいですね。 ➤ 食事ですが、ゆんたくタイムで久しぶりに会う方々と話げできたので良かった。 ➤ サンドイッチが美味しかったです！また、グループのまち協のお話を聞くと、だいぶ、実施している事業内容が異なっていました。これまで、他地区の華々しい事業やイベントにプレッシャーがありましたが、地域にあった内容でもよいのだと感じました。
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 所用があり不参加でした。 ➤ 日頃のんびりゆんたくすることができておらず、とても嬉しかったです。
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ ゆんたくタイムも有意義に話し合うことが出来て良かったです。 ➤ 久しぶりにお会いする方々も多く、挨拶やコンタクトする時間となり良かった。 ➤ 同じ釜の飯を喰う！打ち解けやすかった。 ➤ 雰囲気馴染む時間にちょうどいい 30 分でした。 ➤ 時間的にも適当であった。 ➤ 参加していないのでわかりませんが、とにかく場の雰囲気がよかったです！ ➤ 運営上の難しさはありそうだが、席はフリーでも良かったのでは。 ➤ 軽食が有るのは初めてです。それが良かった。その間で皆と確認等が出来て良かったです ➤ いきなりスタートするより、こうしたインターバルはいいですね。
ふつう	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 18 時半からの参加でしたので、ゆんたくタイムについてはわかりません。 ➤ 直前での参加であったため、あまり交流する時間がなかった。 ➤ テーマを設定するとか、何かもっと有意義な時間になるように工夫の余地があると思う ➤ 参加していませんが、良いアイデアだとおもいます。 ➤ 席を離れて挨拶回りができた ➤ その時間帯は参加がまばらで同じ人とずっと話しをしていたので次何を話そうか行き詰まりした感がある ➤ 5分くらいしか時間が取れなかったから。 ➤ 地域の夏祭りの準備があり、最初から参加出来なかった。 ➤ サンドイッチごちそうさまでした。嬉しかったです。
少し不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 15 分過ぎに参加、活用しきれなかった。サンドイッチごちそうさまです。
不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 時間に間に合わなかった ➤ 時間に間に合わず参加できなかった

⑤ 各分科会ごとの満足度と評価理由

【分科会①:SDGsパスポート】

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ SDGS パスポートを使って子ども会を復活させよう！学校側と繋がるツールとして利用できる。 ➤ 使えそう。
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 制度の理解と活用のヒントがあった
普通	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 少人数で話げできたことは良かった。具体的に校区まち協として SDGs パスポートを取り入れるイメージが今一つつかめなかった。もちろん、いい物だとは思ったが。

【分科会②:みんなが参加しやすい環境づくり】

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 担い手や若い人達のまちづくりの参加としては、とても参考になり、有効に活用できたらと思います。 ➤ 参加しやすい環境づくりについて、具体的な取り組み方法について説明いただいたため。 ➤ アイスブレイクを自分の校区の運営委員会でも取り入れようと思った。 ➤ 進行のすすめかたや内容もすごくよかったです。 ➤ 躰きそうな小さな点まで意識されていて良かった。
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 誰もが参加しやすい会議の持ち方や進め方のヒントをもらえた。欲をいえば、校区まちへどう引っ張って巻き込んで行くかといったところも、あれば良かったか？ ➤ 講師の方の内容は理解できた。良かったと思う。現場で使うには、会議の時間が長くなるのでは？と思った。細かい準備が必要だと感じた ➤ 会議の進め方やアイデアの出し方など、すぐに実行したい内容で、わかりやすく楽しかった。自分で体験しながら学べたので他の人にも伝えやすいと思います。
少し不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 開催前の案内や広報、人集めに関する内容と思い込んでいたため乖離があった。私の思い込みがあった。

【分科会③:会計担当者】

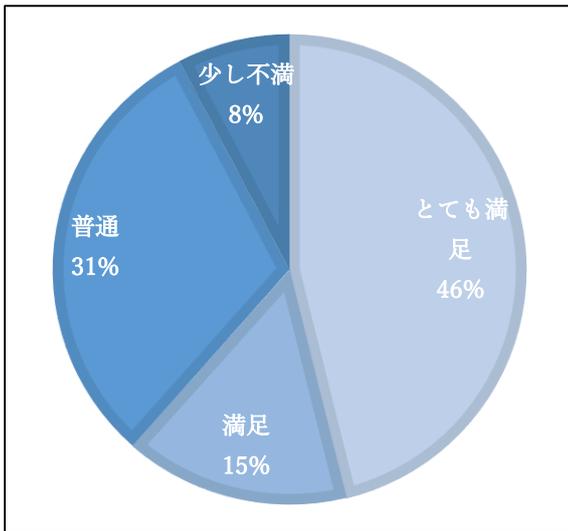
とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 他校区の会計の仕方がとても参考になった。あいまいな部分を教えてもらったので、次に活かせることが出来そうです。 ➤ 校区によって会計処理方法がちがったり、行政の担当者によって指導にバラつきがあるとおもいました。勘定科目一覧表や、Q&A 方式の簡単なマニュアルがあれば良いと思います。 ➤ 会計説明者が親身に校区まち協に寄り添う進行をしていた。分科会資料は、アフターの全体開催ではなく、分科会で渡してもらえたら更に理解が深まった。
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 説明内容、良かったです。それよりも皆さんの会計の手間への気持ちが聞けたかな～と思いました。 ➤ Q8 の回答とも被るのですが、各事業の支出の状況がわかったので参考になりました。
ふつう	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 持ち帰り検討事項が多かったため ➤ その場の回答が得られないのも有ったので、その後の回答内容によります

【分科会④:情報アップデート】

とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 他の校区の意見や、考えが聞けた
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ それぞれのまち協の活動や課題をコンパクトに聴けたから、アイデアや課題が見えてきたから。 ➤ 少し内容は要約が辛いこともありましたが、各まち協の実情を伺って、うなずけることがたくさんありました。

ふつう	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 私的には沢山意見を言わせてもらいましたが、活動が活発な校区とそうでないと校区もあり、それに対する質問があれば良かったが皆んな遠慮がちで質問があまりあがらなかったから ➤ 時間が足りない。 ➤ 牧野先生の専門分野である社会教育とまちづくり協議会の関係について、もう少し話や考察が欲しかったです。
少し不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ アップデートというが、採り上げた講演はいずれも参加したもので、もっと新しいものを期待していた。まち協とは何か、存在意義、これからの方向性などを参加者間でもっと議論したかった。

⑥ クロージングパートの満足度



とても満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 他校区の会長などの話が聞けて、とても勉強になった。 ➤ 意見交換する時間が十分に確保できた。様々なまち協の方の意見を踏まえ、様々なとらえ方にも学びに繋がった。 ➤ 野底スピーチはよかった。 ➤ クロージングの時には、全員打ち解けた雰囲気でした。 ➤ 野底氏のお話もとても良かったです。 ➤ この様な交流会の機会をありがとうございました。 ➤ 活発な意見交換でみなさん、楽しそうでした。活動はやっぱり楽しい！ことは重要だと思います。 ➤ 自由な意見交換が面白く楽しかった。所属するまち協の中ではなかなか言えないことが
-------	--

	<p>他校区の方とは腹を割って話せる、そんな場面もあり、ちょっと驚きであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 野底さんのお話は非常に良かった。特に中学生自治会長の話には気づきがあった。 ➤ おじさん4人で密になるほど近づいて話に熱中した。 ➤ 他の分科会の内容もその場ですぐ共有できて、自分の学んだ事を人に伝える事によって学んだ事を忘れないように出来た。他の方達の意見や感想も聞けて良かった。 ➤ 学生の民生委員児童委員が誕生できるきっかけを頂いた！ ➤ 野底さんの話は学びや気づきをいただきました。 ➤ メンバーにも恵まれ、とても有意義な意見交換となりました！
満足	<ul style="list-style-type: none"> ➤ お互いが情報共有できる機会として意見交換会は良かったと思います。 ➤ 各分科会の共有のみならず、互いに課題や事例を共有していて、今回の意見交換会の意図していたところが見られた。 ➤ 時間がタイトで、イキイキして短期集中で盛り上がった。 ➤ 分科会を経ての意見交換は皆さんも同じ悩みや苦勞？があるんだな～と分かった後でしたので沢山聞きたいことが聞けました。ほとんどがキャリアある先輩方でしたので納得のいくお答えを頂きました。
ふつう	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 野底氏の話は興味深かったが、あの手のものを幾つか集めてほしい ➤ 隣り合わせで、回りの声で、自分たちの話が聞けない。分科会の発表の場で、良かったのでないか ➤ 時間が短すぎて、質問の回答が上手く出来なかった。盛り上がり過ぎて周りの声になり声が聴きづらかった ➤ 他の分科会の話が聞けるのはよかったが…会場内の声がうるさくてグループの人の話は半分くらいしか理解できなかった。 ➤ 時間が足りない。 ➤ 別の分科会の事が聞けてよかった。周りの話し声で、自分のグループの声が聞こえにくかった。 ➤ 反響して声が聴き取りづらいため大変だった。 ➤ 周りの声で聞き取れなかったともありました。でも、皆さんの受け止め方が聞けて良かった
少し不満	<ul style="list-style-type: none"> ➤ 周囲の声・音が大きく、会話がうまくできなかったためです。また、一人の方が長く話しており、ひとりひとりの話をあまり聞けませんでした。グループ内に、ファシリテーター的な役割の方を決めるかグラドルールを決めてから、意見交換をした方がよいのかと感じました。 ➤ 分科会で話し合った内容の振り返りは、準備会1校1名に、最近携わったメンバーが1名だったため、これからの各校区活動計画の情報交換会となった。

⑦ 校区まち協意見交換会の場づくりについて、次回はどうのように行いたいですか。アイデアがあれば教えてください。

- 私達社協の CSW(コミュニティソーシャルワーカー)も加わり、一緒に交流意見交換会ができればと思います。また、呼びかけをお願いします。
- 分科会でのミニ懇談会があったら、他校区の方ともう少し深く話がしたい。
- 今回の取り組みは良かったと思うので、次年度も同様な方法で実践されるとよいと感じる。
- 他府県さらには諸外国での例や研究状況など新たな情報を基に、助成金の使い方も含め今後のあり方について発展的検討ができる場になればいいと思うのですが、まだ具体的に言うのは難しい
- それぞれの校区まち協運営側のみなさんが、この意見交換会の場を超えて話が出来る関係性作りに繋がる内容の充実に期待します。
- もっと会場を広げて、大まちづくり協議会を 2 年に 1 度くらいあっても良いのでは?とかんじました。
- 総会の資料はみんな興味あったみたい。データで収集しみんなに配ってはどうか。会計担当者の分科会は好評でした。小学校との関係もいろいろだと思います。このへん掘っても面白いかも。
- 各まち協の実際の活動風景や県外、海外の活動なども知りたいです。
- 実務担当者の勉強会を、年に数回は企画してほしいです。
- 今回の企画は開催担当者の事前ディスカッションがよく行われた印象があります。次年度は数校区で運営チーム(単年)を組んだり、まち協課主催なら数名キーマンに参加させてアイデアを広げてみる手法もありかな・・と思いました。
- 同じように全校区の総会資料など揃えて開催できれば良い。
- 各校区の新規事業や特徴などをまとめた資料を提供してほしい。
- 全体ではなくて、3校区～5校区で開催して現場の声をもっと聞きたい。会長会、事務局長会、会計担当と個々に開催してもらいたい。
- 収入をつくる。法人格を持つ。
- 全体での意見交換の場をグループの方々の声が聞きやすいよう、部屋をもう一つくらい借りて全体の人数を半分くらいにして、行って欲しい
- 悩み事をフロアに投げかけて、答えを募集するなど、直接的な応答もできると満足度が高まると思いました。
- 今回は出来るだけ、このような場にあまり参加したことのないメンバーに参加してくれるよう促した。市内のそれぞれの地域でいろんな人が、いろんな形で関わっていることを知ってほしいと思う。役員ばかりではなく、校区まち協に関わる方たちがつながる機会にしてもらえたらと思う。
- 私の分科会は時間が足りなかったと感じました。それぞれの持ち寄り資料があれば、それに対しての具体的な意見交換会が出来たと思います。でも限られた時間では難しいですね
- 6 時スタート(6 時半でも)、かなり無理して参加しました。
- 他のまち協での失敗談と成功談を聞いてみたいなと思いました。
- 社協と学生の参加は、今後の活動に活力を与えてくれる。今後も学生の社会参加を進め、大人の成長に刺激を与えて行きましょう!
- こういう楽しい場があると、案内しやすいですね。
- 今回初めての参加でしたが、とてもよい場に参加できました。同じ内容でも参加したいくらいです。